

## ILO100 周年記念シンポジウム講演要旨

2018年2月1日、於イイノホール

「仕事の未来世界委員会の議論：日本への示唆」

清家篤（日本私立学校振興・共済事業団理事長、慶應義塾学事顧問）

### 〔I〕仕事の未来世界委員会

- （1）ILO 創立 100 周年記念事業の意義
- （2）不易（ILO の基本理念）と流行（労働をめぐる構造変化）
- （3）人間中心（human-centered）の考え方

### 〔II〕仕事を巡る構造変化

- （1）外部構造変化、人口・技術・グローバル化・気候、対応必須
- （2）対応は宿命ではなく選択、危機を機会に変える発想

### 〔III〕3つの投資促進

- （1）人間の潜在能力（people's capabilities）への投資拡大
- （2）仕事にかかわる制度（the institutions of work）への投資拡大
- （3）ディーセントで持続可能な（decent and sustainable）仕事への投資拡大

### 〔IV〕日本に期待される国際貢献

- （1）生涯現役社会（lifelong active society）のモデルを示す
- （2）生涯能力開発（lifelong learning）のモデルを示す

### 〔V〕日本への宿題

- （1）時間主権拡大と個人の多様性を拡大する仕組みへの転換
- （2）社会の持続可能性を高める仕事を増す

### 〔VI〕未来の「よい仕事」とは

- （1）ILO の基本理念堅持、人間中心原則、成長できる仕事
- （2）高度化、労働への分配拡大、人的資本投資の必要、仕事を通じて
- （3）これからの 100 年のために、「奴隷」の視点で、日本の貢献に期待大

〔図表 1〕 世界の人口高齢化

表1-1-5 世界人口の動向等

	1950年(昭和25年)	2015年(平成27年)	2060年(平成72年)
総人口	2,536,275 千人	7,383,009 千人	10,222,598 千人
65歳以上人口	128,815 千人	611,897 千人	1,817,264 千人
先進地域	62,744 千人	220,572 千人	357,701 千人
開発途上地域	66,071 千人	391,325 千人	1,459,563 千人
65歳以上人口比率	5.1 %	8.3 %	17.8 %
先進地域	7.7 %	17.6 %	27.6 %
開発途上地域	3.8 %	6.4 %	16.3 %
平均寿命(男性)	45.51 年	68.55 年	76.72 年
同 (女性)	48.50 年	73.11 年	81.08 年
合計特殊出生率	4.96	2.52	2.17

資料: UN, World Population Prospects: The 2017 Revision

(注1) 合計特殊出生率は、1950-1955年、2010-2015年、2065-2069年。平均寿命は1950-1955年、2010-2015年、2060-2065年

(注2) 先進地域とは、ヨーロッパ、北部アメリカ、日本、オーストラリア及びニュージーランドからなる地域をいう。開発途上地域とは、アフリカ、アジア(日本を除く)、中南米、メラネシア、ミクロネシア及びポリネシアからなる地域をいう。

(資料出所) 内閣府「平成 30 年版高齢社会白書」

〔図表 2〕 第 4 次産業革命の雇用への影響予測

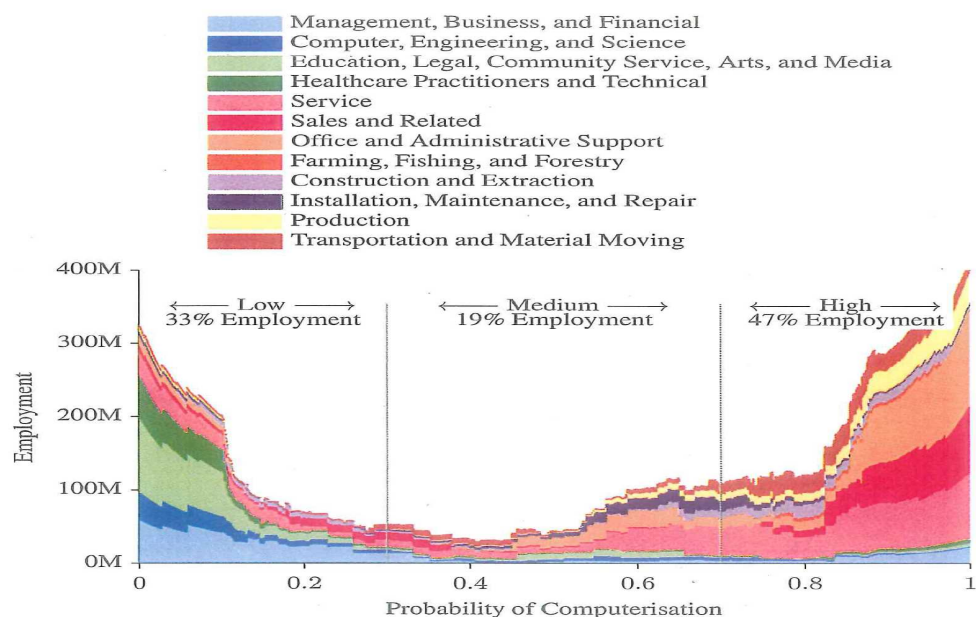
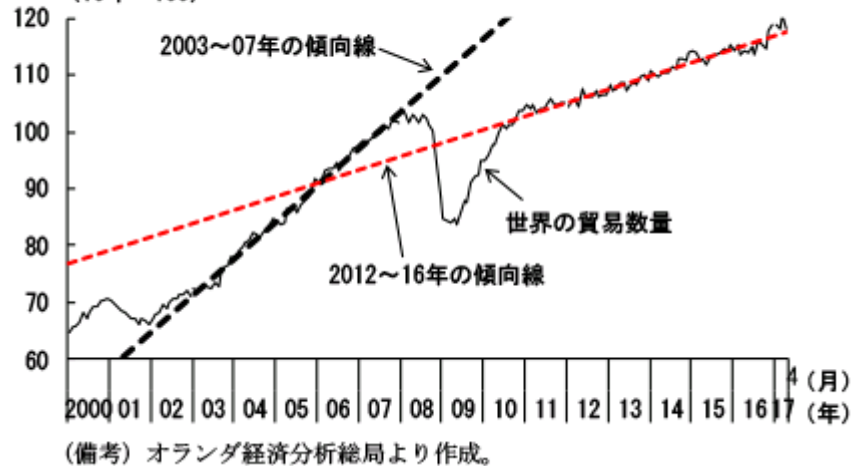


FIGURE III. The distribution of BLS 2010 occupational employment over the probability of computerisation, along with the share in low, medium and high probability categories. Note that the total area under all curves is equal to total US employment.

(資料出所) Benedikt Frey and Michael A. Osborne, THE FUTURE OF EMPLOYMENT: HOW SUSCEPTIBLE ARE JOBS TO COMPUTERISATION?, Oxford University Programme on the Impact of Future Technology, 2013.

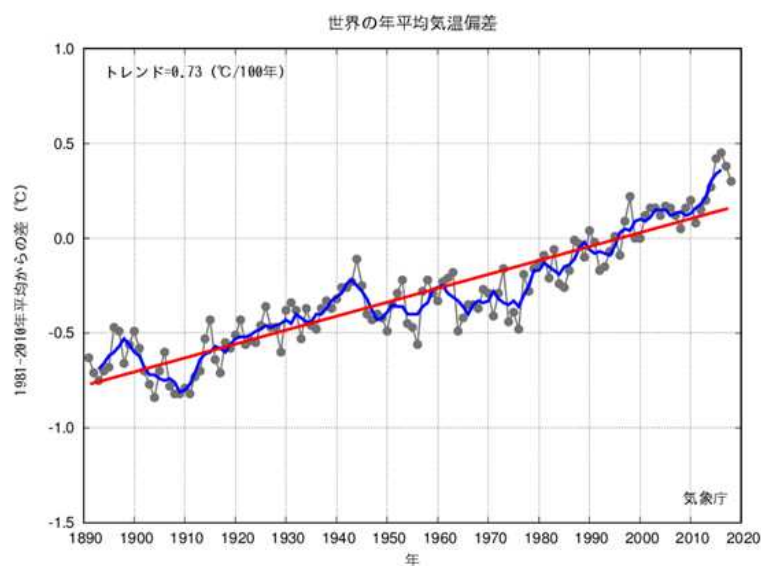
〔図表3〕 国際貿易の趨勢

第1-1-3 世界の貿易数量  
(10年=100)



(資料出所) 内閣府「世界経済の潮流 2017年 I」

〔図表4〕 地球温暖化の趨勢



(資料出所) 気象庁ホームページ

「奴雁」:「群雁野に在て餌を啄むとき、其内に必ず一羽は首を揚げて四方の様子を窺ひ、不意の難に番をする者あり、之を奴雁と云ふ。学者も亦斯の如し。天下の人、夢中になりて、時勢と共に変遷する其中に、独り前後を顧み、今世の有様に注意して、以て後日の得失を論ずるものなり。」(福澤諭吉『民間雑誌』明治7年)



会議での討論風景



自席より俯瞰した会議場



会議後に食卓を囲んで議論を続ける



最終回を終えてローヴェン議長（右）、  
ライダー事務局長（左）と